

札幌市長 様

令和 ○ 年度

役務名 ○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・業務

令和 ○ 年 □ 月分 報告書

受託者 ○○・・・・・・・・株式会社

社判

点検・整備総括表

業務責任者

作業分類		点検（月）		管理運転	<input type="checkbox"/> 実施		主要機器	名称（番号）	形式	口径	設置年月日				
					<input type="checkbox"/> 未実施										
作業期間		開始	令和 年 月 日 時 分												
		終了	令和 年 月 日 時 分												
作業内容								燃料貯留量		燃料貯油槽 (ℓ) (槽容量) (ℓ)					
										燃料小出槽 (ℓ) (槽容量) (ℓ)					
								積算電気量 (メータ読み)		動力用 (今月) (kwh) (前月) (kwh)		(前月) (kwh)			
										電灯用 (今月) (kwh) (前月) (kwh)		(前月) (kwh)			
								作業責任者							
								立会者							
								作業員							
所見	【概況】							【改善された項目】（部品等の交換を含む）							
	【新たな不具合】														

点検・整備詳細記録表

機場名

記録年月日 令和 年 月 日

点検結果の評価基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは清掃にて対応できる。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある（調整、給油、塗装などが必要）。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（取替、更新、整備）が必要である。

※不具合・故障等の復旧を確認した場合、処置結果にその旨を記載すること（評価は○とする）。

設備区分	機器名	写真番号	評価	内容状況	処置結果

様式3

運転記録表（1）

機場名
 記録年月日
 令和
 年
 月
 日（天候
 ）
 （外気温度
 ℃）
 （室内温度
 ℃）

運転方式		<input type="checkbox"/> 通常運転		<input type="checkbox"/> 管理運転										
管理運転方式		<input type="checkbox"/> 全水量運転		<input type="checkbox"/> バイパス管循環運転		<input type="checkbox"/> 締切運転		<input type="checkbox"/> 機器単独運転						
燃料使用量		計 (L)		主エンジン (L)		自家発エンジン (L)		燃料給油量 (L)		総 運 転 排 水 量				
潤滑油給油量		計 (L)		主エンジン (L)		減速機 (L)		その他 (L)		(千m3)				
運転回数		1		2		3		4		<div>運転操作時間</div> <div>アワーメータ等の読み (運転終了時)</div>				
水位	内水位 (m)	→		→		→		→						
	外水位 (m)	→		→		→		→						
機器名		時刻		時刻		時刻		時刻		計				
運 転 操 作	主ポンプ	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
	自家発電機	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
	除 塵 機	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
	吐出槽ゲート	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		(開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:		～	:	
	吸水槽ゲート	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		(開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:		～	:	
	ゲート	No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～		:		Hr
		(開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:		～	:	

機場名

記録年月日 令和 年 月 日

[illegible]

様式5

故障記録表

機場名
 記録年月日
 令和
 年
 月
 日
 記録者氏名

故障発生 年月日時				故障発生までの 運転時間				修理完了 年月日			
故障発生 設備・箇所	・故障設備名					故障原因・ 対策内容	・故障原因				
	・故障状況						・対策内容				
故障状況（ 写真・図面）						改良要望事項等					
							施工業者名				施工金額 (税込)

様式6

設備の改良・更新記録表

機場名	記録年月日	令和	年	月	日	記録者氏名
-----	-------	----	---	---	---	-------

[illegible]

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔機場名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔機場名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔機場名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

点検・整備チェックシート

河川ポンプ設備・ゲート設備

施設名： 米里排水機場

点検月日： 令和 年 月 日

点検方法： 点検

【概要】

- (1) 本点検・整備チェックシートは、「河川ポンプ設備点検・整備標準要領(案)(国交省)(平成28年3月)」及び「河川用ゲート設備点検・整備標準要領(案)(平成28年3月)」の添付資料「点検・整備チェックシート」を基本としている。
- (2) 実際の運用(実点検)においては、本チェックシートに示す機器、点検部位(点検内容)の内、当該排水機場において実装されている機器、点検部位(点検内容)について実施する。致命的機器・部品については、チェックシートに網掛け表示の上、「致」と示している。
- (3) 点検方法には、月点検(目視点検、管理運転点検)、年点検、運転時点検、臨時点検、定期整備があり、その内容は以下のとおりである。

【点検方法】

- (1) 月点検は、設備の管理運転により設備全体の機能、状態の把握を行う管理運転点検を原則とする。管理運転では、操作することで正常に動作することを確認する。また、管理運転前後には取付状態や汚損などの確認を実施する。
- (2) 目視点検は、管理運転が出来ない範囲及び凍結対策を行った冬期間において、設備等の外観の異常や前回点検時以降の変化の有無について確認する。冬期間は、凍結、積雪による損傷がないか等の確認も行うものとする。
- (3) 年点検は、全設備について設備機能の確認、劣化、損傷の発見のため年1回実施するものである。なお、機器の運転時に実施する点検項目は()書きで示しているが、管理運転ができない場合は月点検の目視点検項目を実施する。
- (4) 運転時点検は、実運転時の実施に際して、運転操作に支障がないか、運転時の異常はないか、運転終了後に次の運転に支障がないか等の確認を行うものである。
- (5) 臨時点検は、地震等の発生時において異常の有無の確認を主に行うものである。
- (6) 定期整備は、機器の健全度評価結果や過去の実績等により実施時期を定めて行う手法による分解整備等の内容である。

【記載方法】

- (1) 機器が複数ある場合は、号機毎に点検結果欄に記載すること。なお、点検結果欄が個々に無い場合は、摘要欄に点検結果を記載すること。
- (2) 点検の結果、不具合・故障が生じている場合(△、×判定)は、その内容について摘要欄に記載すること。また、別途、点検・整備詳細記録表には不具合項目一覧表、故障記録表には各不具合項目の状況等報告書を各々指定された様式に作成すること。なお、定期整備の点検項目は非表示としている。

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

1 監視操作制御設備 1-1 遠隔・機場集中監視操作盤 (グラフィック型)

機器名: 補機動力盤(2) (AP2)

機種形式: 機場集中監視操作型(グラフィックパネル型)、自立型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)					
※2 点検方法 (() 書さは運転時実施)					
X	交換	C	清掃	W	分解
A	調整	M	測定	T	増締
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外
				E	目視
				H	指触

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要
				目視	管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
遠隔・機 場集中監視操作型 (グラフィック型)	致	全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。			
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストップ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。			
		盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。			
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
			盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、筐体の緩み。汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。		
	端子、端子台の状態	—		—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁物の破損、変形がないこと。				
	端子符号の脱落	—		—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。				
	致	操作スイッチ	動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤動作がないこと。			
		取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。				
		指示計	動作確認	—	E	E	E	—	零点及び指示計値が正常なこと。			
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯	点灯状態	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。			
		グラフィックパネル	表示灯点灯の確認	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
表示器表示の確認			E	E	(E)	E	E	発・受信の指示が一致していること。				
特記事項		注) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。										

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

1 監視操作制御設備 1-4 機側操作盤										機器名: 1号・2号主ポンプ機側操作盤 (LCB-1、LLCB-2)									
機種形式: スタンド型																			
※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)										※3 点検結果の判定基準									
※2 点検方法 () 書きは運転時実施)										<div> <div>○</div> <div>△</div> <div>×</div> </div> 正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。 現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。 現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。									
X	交換	C	清掃	W	分解	E		目視											
A	調整	M	測定	T	増締	H		指触											
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外														
注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。																			
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。																			
										※4 傾向管理									
										<div>○</div> 測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目									
装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2						判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要				
				月点検 目視	年点検 管理 運転	運転点検 点検	臨時点検 点検				1号用	2号用							
機側操作盤	致	全般	動作確認	—	D	D	D	—	正常に動作すること。										
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。										
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。										
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。										
	致	盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。										
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。										
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。										
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。										
	致	盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、筐体の緩み。汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。										

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

1 監視操作制御設備
1-4 機側操作盤

機種形式: スタンド型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2				判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				月 点 検 目 視	年 管 理 運 転	運 点 検	臨 時 点 検		真 空 ボ ン プ	空 気 圧 縮 機	部 材 移 送 ボ ン プ			
機 側	致	全般	動作確認	—	D	D	D	—	正常に動作すること。					
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。					
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストップ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気ロフィルタに目づまりがないこと。					
		盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。					
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。					
	作 盤	盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、筐体の緩み。汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。					
			端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁物の破損、変形がないこと。					
端子符号の脱落			—	—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。						
致		操作スイッチ	動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤動作がないこと。					
	取付状態、汚れ		E	E	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。						
	表示器・表示灯	点灯状態	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。						
		取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。						
特記事項		注) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。												

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

1 監視操作制御設備 1-4 機側操作盤	機器名: 機側操作盤(建築設備) (LCB-6) 機種形式: スタンド型
-------------------------	---

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)						※3 点検結果の判定基準		※4 傾向管理	
※2 点検方法 () 書きは運転時実施									
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視	○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触		
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外				
注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。 注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。						<input type="radio"/> 正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。 <input type="radio"/> 現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。 <input checked="" type="radio"/> 現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。			

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2						判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要
				目 視	管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	所 内 排 水 ボ ン プ						
機 側 操 作 盤		全般	動作確認	—	D	D	D	—	正常に動作すること。						
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。						
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。						
	致	盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。						
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。						
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。						
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。						
		盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、筐体の緩み。汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。						
			端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁物の破損、変形がないこと。						
			端子符号の脱落	—	—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。						
	致	操作スイッチ	動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤動作がないこと。						
			取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。						
		表示器・表示灯	点灯状態	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。						
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。						
	特記事項		注) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。												

1 監視操作制御設備
1-5 補助繼電器盤

機器名: 補機動力盤(1) (AP1)

機種形式: 自立型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (() 書さは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

注)Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注)Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

[illegible]

1 監視操作制御設備
1-5 低圧受電盤

機器名: 低圧受電盤 (LP)

機種形式: 自立型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)						
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)						
X	交換	C	清掃	W	分解	E
A	調整	M	測定	T	増締	H
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外	

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注)Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・代替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要
				目視	管理 運轉	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
補 助 繼 電 器 盤	致	全般	動作確認	—	D	D	D	—	正常に動作すること。			
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。			
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストップ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。			
		盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。			
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。			
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
		盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、管体に緩みがないこと。汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。			
			端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁物の破損、変形がないこと。			
			端子符号の脱落	—	—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。			
		操作スイッチ	動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤動作がないこと。			
			取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。			
		指示計	動作確認	—	E	E	E	—	零点及び指示計値が正常なこと。			
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯	点灯状態	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。			
		運転時間計	指示状態	—	E	(E)	E	—	運転時間に正確に追従していること。			
			取付状態	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。			
		タイマ	動作確認	—	—	D	—	—	設定時間で正常に動作すること。			
			設定値の確認	—	—	E	—	—	所定の設定値にセットされていること。			
		補助継電器	取付状態、汚れ、変色	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。			
			動作状態	—	—	D	—	—	動作不良、誤動作、異音がないこと。			(シーケンスチェック)
		PLC	入力信号の確認	—	—	D	—	—	通常の操作制御信号以外の故障信号等は模擬入力し正しく動作すること。CRTと連携する場合は、PLC入力信号とCRTモニタ出力が一致していること。			(シーケンスチェック)
出力信号の確認	—		—	D	—	—	通常の操作制御信号以外の故障信号等は模擬入力し正しく動作すること。CRTと連携する場合は、PLC入力信号とCRTモニタ出力が一致していること。			(シーケンスチェック)		
内蔵電池	—		—	E	—	—	推奨交換時期を超過していないこと。					
特記事項		注) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。										

1 監視操作制御設備
1-8 系統機器盤

機器名：1号・2号主ポンプ盤 (PP1・PP2)、換気動力盤 (LFP)

機種形式：自立型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理

○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
---	-------------------------

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	※2 点検方法					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月 目視	年 管理 運 転	運 点 検	臨 時 点 検	1 号 ボ ン プ		2 号 ボ ン プ	換 気 動 力 盤			
系 統 機 器 盤 (リ レ ー 型 ・ P L C 型)		全般	動作確認	—	D	D	D	—	正常に動作すること。					
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
		盤面	発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆・汚れがないこと。					
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等の緩み。軽く開閉できること。施錠・解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。					
	致	盤内	汚れ、異物	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の浸入や結露がないこと。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。					
			シーケンスチェック	—	E	D	—	—	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。					
			保護継電器の動作	—	—	D	—	—	整定値での動作が正常なこと。					
		盤内器具	機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。					
			端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁物の破損、変形がないこと。					
			端子符号の脱落	—	—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。					
	致	操作スイッチ	動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤動作がないこと。					
			取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接続部の荒れがないこと。					
		指示計	動作確認	—	E	E	E	—	零点及び指示計値が正常なこと。					
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。					
		表示器・表示灯	点灯状態	E	E	(E)	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。					
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。					
		タイマ	動作確認	—	—	D	—	—	設定時間で正常に動作すること。					
			設定値の確認	—	—	E	—	—	所定の設定値にセットされていること。					

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月 目視	点 管理 運 転	年 点 運 転 時 点 検	臨 時 点 検	1 号 ポン プ		2 号 ポン プ	換 気 動 力 盤			
系統機器盤 (リレー型・PLC型)	致	配線用遮断器	取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。					
			変色	E	E	E	—	—	変色がないこと。					
			開閉動作	—	—	D	—	—	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。					
			接続部	—	—	T	—	—	緩みがないこと。					
		電磁接触器	取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	取付部に緩みがないこと。汚れがないこと。					
			変色	E	E	E	—	—	変色がないこと。					
			異常音	—	S	(s)	—	—	閉路中に異常音がないこと。					
			動作状態	—	D	D	—	—	動作不良、誤動作がないこと。					
			接触面の状態	—	—	E	—	—	接触面に荒れがないこと。					
			接続部	—	—	T	—	—	緩みがないこと。					
	配線用漏電遮断器	取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	取付部に緩みがないこと。汚れがないこと。						
		変色	E	E	E	—	E	変色がないこと。						
		開閉動作	—	—	D	—	—	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。					(テスト鉤による)	
		接続部	—	—	T	—	E	緩みがないこと。						
	進相用コンデンサ	汚れ、油漏れ、振動、過熱、変形	—	E	E	—	E	汚れがないこと。油漏れ、振動、変形、過熱による変色がないこと。				—		
		異常音	—	S	S	—	—	異常音のないこと。				—		
		機器外箱の接地	—	—	E	—	—	緩みがないこと。断線がないこと。				—		
		接続部	—	—	T	—	—	緩みがないこと。				—		
		絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。				—		
	致	補助継電器	取付状態、汚れ、変色	—	—	E	—	—	取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。変色がないこと。					
動作状態			—	—	D	—	—	正常に動作すること。					(シーケンスチェック)	
PLC		電源電圧の確認	—	—	E	—	—	電源電圧に異常がないこと。						
		入力信号の確認	—	—	D	—	—	通常の操作制御信号以外の故障信号等は模擬入力し正しく動作すること。 CRTと連携する場合は、PLC入力信号とCRTモニタ出力が一致していること。					(シーケンスチェック)	
		出力信号の確認	—	—	D	—	—	通常の操作制御信号以外の故障信号等は模擬入力し正しく動作すること。 CRTと連携する場合は、PLC入力信号とCRTモニタ出力が一致していること。				—	(シーケンスチェック)	
特記事項	注) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。													

機器名: 主ポンプ

機種形式: 横軸斜流

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

[illegible]

2 主ポンプ設備
2-6 主配管・弁類(主配管、電動弁、逆流防止弁)

機器名: 電動吐出弁、主配、フラップ弁ほか

機種形式: バタフライ弁、鑄鉄管ほか

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				月 目 視	点 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
主配管		全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の劣化・剥離がないこと。						
		主配管	水抜き(冬期養生)	A	—	—	—	—	配管内に水が溜まっていないこと。					(凍結対策)	
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食が発生していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	水漏れがないこと。						
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離および劣化がないこと。						
電動吐出弁		全般	動作確認	—	D	—	D	—	正常に動作すること。						
			異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の劣化・剥離がないこと。						
		致 弁箱	水抜き(冬期養生)	A	—	—	—	—	完全に水が抜けていること。					(凍結対策)	
			腐食、塗装	—	—	E	—	—	腐食・錆のないこと。塗装の剥離がないこと。						
			劣化	—	—	E	—	—	著しい劣化のないこと。						
		致 弁体	腐食、塗装	—	—	—	—	—	腐食・錆のないこと。塗装の剥離がないこと。						
			劣化	—	—	—	—	—	著しい劣化のないこと。						
			損傷	—	—	—	—	—	損傷のないこと。						
		致 水密ゴム	劣化	—	—	—	—	—	弁座部から異常な水漏れのないこと。						
			グラッドパッキン	水漏れ	—	—	E	—	—	異常な水漏れがないこと。					
		致 減速機構及び弁軸	潤滑油量	異常音	—	H	(S)	S	—	開閉動作中に異常音を発生しないこと。					
				回転体の滑らかさ	—	H	H	H	—	ネジ部のカジリ、摩耗がないこと。					
				開度計	零指針	—	—	E	E	—	全閉時の指針が0%開度を示していること。				
			致 トルクスイッチ	電動機	作動	—	—	—	—	—	異常なトルクが掛らない限り動作しないこと。				
		絶縁抵抗			—	—	M	—	—	絶縁抵抗値が規定値以上であること。					(盤にて測定)
		温度		—	H	(H)	—	—	異常な発熱がないこと。						
		入力電流		—	M	(M)	M	—	入力電流が規定値以内であること。						
		開閉時間		—	M	(M)	M	—	開閉時間が規定値以内であること。						
		管理 運転用配管		配管	水抜き(冬期養生)	A	—	—	—	—	配管内に水が溜まっていないこと。				
異常、損傷	E				E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
漏れ	—				E	(E)	E	—	水漏れがないこと。						
逆流防止弁	全般	動作確認		—	D	—	D	—	正常に動作すること。						
		異常、損傷		E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
		塗装		—	—	E	—	—	塗装の劣化・剥離がないこと。						
	致 弁箱	腐食、塗装		—	—	E	—	—	腐食・錆のないこと。塗装の剥離がないこと。						
		致 弁体	腐食、塗装	—	—	E	—	—	腐食・錆のないこと。塗装の剥離がないこと。						
	損傷		—	—	E	—	—	損傷がないこと。							
	致 弁軸	腐食	—	—	E	—	—	腐食・錆のないこと。							
		回転の滑らかさ	—	—	—	—	—	カジリ、摩耗がないこと。							
		特記事項													

3 主ポンプ設備駆動設備

3-1 主原動機(ディーゼル機関)

機器名: 主ディーゼル機関

機種形式: 4サイクルディーゼル機関(空冷)

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要	
				目視	管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
全般		ディーゼル機 関全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。						
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。						
機 関 本 体	致	台板	締まり具合、損傷	E	E	E	E	—	緩み、損傷がないこと。						
			水平度	—	—	—	—	—	運転に支障のないこと。						
		シリンダヘッド	ヘッドガasketの劣化	—	—	—	—	—	劣化がないこと。						
			弁の摩耗・バネのへたり	—	—	—	—	—	摩耗、へたりがないこと。						
			タペットの間隙	—	—	A	—	—	タペットの間隙(ピストン圧縮・TOPでチェック)						
		クランク室	シリンダライナの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					(連結棒本体、歯車、ピストンブッシュを含む)	
			コンロッドメタルの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。						
			クランクシャフトの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。						
			クランクシャフトメタルの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。						
			ボルトの緩み	—	—	T	—	—	緩みがないこと。						
			カム軸の摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。						
			デフレクション	—	—	M	—	—	計測値がメーカーの規定値以内であること。				○		
			クランクシャフトの固着	—	D	—	—	—	引っかかりがないこと(ターニング)。						(歯車、軸受含む)
			過給機	フィルタの状況	—	—	E	—	—	異物がないこと。					
		振動		—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
		異常音		—	S	(S)	S	—	異常音が発生していないこと。						
		油量		E	E	E	E	—	油量が適切であること。					(油ダメ付のみ、2年毎に交換)	
		入口温度		—	M	(M)	—	—	異常な温度上昇がないこと。				○		
		本体		—	—	—	—	—	傷、へこみがないこと。						
		内部状況		—	—	E	—	—	過給器内部に腐食が発生していないこと。						
		ピストン	ピストンの摩耗	—	—	—	—	—	異常な摩耗がないこと。					(ピストンピン、排気弁装置部、排気弁本体含む)	
			ピストンリング摩耗	—	—	—	—	—	異常な摩耗がないこと。						
		调速機	調整	—	—	—	—	—	調整(ガバナバネ、速度設定ハンドル、軸受け、潤滑油、燃料ラック、駆動歯車を含む)						
		外部軸受	油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。					(フライホイール含む)	
			振動(速度)	—	M	(M)	M	—	異常な振動が発生していないこと。						
			温度	—	H	(H)	H	—	異常な温度になっていないこと。						
			摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。						
遠心クラッチ	動作確認	—	E	(E)	E	—	正常に動作すること。								
	摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。								
冷 却 水 系 統	致	内部冷却水 ポンプ	振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
			摩耗、劣化	—	—	E	—	—	摩耗、劣化していないこと。						
			配管漏れ	E	E	(E)	E	E	漏れがないこと。						
			配管腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			配管振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
			バルブ開閉	—	—	E	E	—	開閉できること。						
			バルブ劣化	—	—	—	—	—	劣化していないこと。						
			空気抜き	E	E	(E)	E	—	空気抜き						
		温調弁	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						

装置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	※2 点検方法					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要	
				目視	月 点 検 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
潤滑油系統	致	内部潤滑油ポンプ	振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。					(潤滑油系統含む)	
			作動	—	S	(S)	S	—	正常に作動すること。						
			配管漏れ	E	E	E	E	E	漏れがないこと。						
		初期潤滑油ポンプ	作動	—	S	(S)	S	—	正常に作動すること。						(圧力調整弁、電動機含む)
			配管漏れ	E	E	E	E	E	漏れがないこと。						
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	絶縁劣化していないこと。						
		機関オイルパン	振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						(オイル交換は2年毎)
			オイルパン油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。						
			オイルパン内腐食	—	—	—	—	—	腐食していないこと(タンク内清掃は2年毎)。						
	潤滑油濾過器	内部清掃	—	—	C	—	—	異物がないこと。					(ペーパータイプは油交換時に交換)		
		エレメント	—	—	E	—	—	異物がないこと。							
	致	潤滑油冷却器	漏れ	E	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			腐食(エレメント)	—	—	—	—	—	腐食していないこと。						
			劣化(エレメント)	—	—	—	—	—	劣化していないこと。						
			防蝕亜鉛の消耗	—	—	E	—	—	消耗していないこと。						
			ドレン	—	—	A	—	—	ドレン排出。漏水の確認。						
		潤滑油	温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。				○		
圧力			—	M	(M)	M	—	圧力が正常であること。							
性状分析			—	—	M	—	—	性状分析							
燃料系統	致	燃料噴射ポンプ	ラックの動作、継手	—	H	H	H	—	引っかけがないこと。					(空気混入、タペット、カム軸、燃料ラック、吸気弁本体を含む)	
			エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
			プランジャ・吐出し弁劣化	—	—	—	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	E	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			異物混入	—	—	E	—	—	異物がないこと。						
			突始め調整ボルト緩み	—	—	T	E	—	緩みがないこと。						
			噴射時期	—	—	M	—	—	噴射時期が適切であること。						
		燃料濾過器	内部清掃	—	—	C	—	—	水分、異物がないこと。					(水分チェック)	
			エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
			エレメント	—	—	E	—	—	異物がないこと。						
	致	燃料弁	噴霧テスト	—	—	A	—	—	噴霧テスト噴口(詰り、後タレチェック)						
			摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
		高圧管	管内エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
			漏れ(亀裂)	—	E	(E)	E	E	漏れ(亀裂)がないこと。						
			振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
		燃料供給ポンプ	摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。						
			配管	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。					
				漏れ	E	E	(E)	E	E	漏れがないこと。					
振動	—			H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。							
ドレン量	—			—	E	—	—	ドレン排出							
空気始動系統	致	分配弁・塞止弁・操縦弁	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			配管劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			配管漏れ	—	E	E	E	E	漏れがないこと。						
			配管腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
		電磁弁・減圧弁	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。					(30k用電磁弁の分解は年点検)	
			損傷、劣化	—	E	E	—	—	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。						
			エア漏れ	—	E	E	E	—	漏れがないこと。						
		始動弁	エア漏れ	—	H	(H)	H	—	漏れがないこと(始動15分後接続配管に						
			作動確認	—	—	W	—	—	正常に作動していること(機関装着後)。						
			PTO始動(エアラン)	—	—	D	—	—	正常に作動していること。						
		停止用エアピストン	作動	—	D	W	D	—	正常に作動していること。					(全シリンダ)	
			空気漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				目視	管理 目録	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
計装機器	致	センサ類 (温度、圧力、流れ)	水温スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			油温スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			油圧スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			空気圧スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			フロースイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			速度スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
		ゲージ類 (温度、圧力、回転他)	冷却水温度計指示	—	E	(E)	E	—	指示値が適切であること。						
			潤滑油温度計指示	—	E	(E)	E	—	指示値が適切であること。						
			排気温度計指示	—	E	(E)	E	—	指示値が適切であること。					(バラツキチェック)	
			冷却水圧力計指示	—	E	(E)	E	—	零点及び指示値が適切であること。						
			潤滑油圧力計指示	E	E	E	E	—	零点及び指示値が適切であること。						
			回転計指示	—	E	(E)	E	—	零点及び指示値が適切であること。					(変動値チェック)	
消音器・排気管	致	消音器	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出						
		排気管	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			排気口の閉塞	—	—	E	—	—	閉塞していないこと。						
冷却装置	致	ラジエータ	水量	E	E	E	E	—	水量が減っていないこと。						
			漏れ	—	E	E	E	—	漏れがないこと。						
			キャップ耐圧	—	E	(E)	E	—	キャップが閉まっていること。					(圧力キャップの場合)	
			損傷、汚れ、劣化	—	—	E	—	—	損傷がないこと。著しい汚れ、劣化がないこと。						
			ホース劣化	—	—	H	—	—	劣化していないこと。						
			ファンベルト	E	E	E	—	—	傷、緩みがないこと。						
			水質	—	—	M	—	—	不凍液の濃度管理						
			リザーブタンク	E	E	E	—	—	漏れがないこと。水量が適量あること。						
		潤滑油冷却器	腐食、劣化	—	—	E	—	—	腐食、劣化していないこと。						
			ドレン	—	E	(E)	E	—	ドレン排出						
			空気冷却器	腐食、劣化	—	—	E	—	—	腐食、劣化していないこと。					
				ドレン	—	E	(E)	E	—	ドレン排出					

装 置 区 分	※1 装置 等の特 性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要
				月 目 視	点 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2			
運 転 状 況	運転状況	異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がしていないこと。						
		排気色	—	E	(E)	E	—	排気色の確認						
		ミストの状況	—	E	(E)	E	—	ミスト量の確認						
		給気管ドレン抜き	—	A	(A)	A	—	ドレン状況の確認						
		給気圧力	—	M	(M)	M	—	給気圧力に異常のないこと。						
		冷却水管エア抜き	—	A	(A)	A	—	エア溜まりがないか。						
		冷却水温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。				○		
		過給機停止時間	—	—	(M)	—	—	過給機停止までの所要時間計測						
		燃料消費量	—	—	(M)	—	—	燃料消費量が規定値以下であること。						
		排気温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。						
		発熱	—	—	(H)	H	—	異常な発熱がないこと(軸受部、クランクケース等)。						
		ラック目盛	—	E	(E)	E	—	指示値が正常であること。					(全シリンダ)	
		回転速度	—	M	(M)	M	—	規定値付近であること。						
		始動時間	—	M	(M)	M	—	新設時など過去の計測結果と比べて著しく異なること。						
		停止時間	—	M	(M)	M	—	新設時など過去の計測結果と比べて著しく異なること。						
	保護回路による機関の停止確認	断水	—	—	D	—	—	点検、テスト調整						
		冷却水温	—	—	D	—	—	点検、テスト調整						
		潤滑油圧	—	—	D	—	—	点検、テスト調整						
		過速度	—	—	D	—	—	点検、テスト調整					(単独運転にて)	
	運転後の確認	潤滑油プライミングポンプ運転	—	E	E	E	—	プライミング状況の確認						
ターニングによる燃料ガスの排出		—	A	A	A	—	ターニングによる燃料ガスの排出					(2回転またはエアラン運転後)		
クランクケース内軸受		—	—	H	H	—	異常な発熱がないこと。							
特記事項		注1) 不凍液、腐食防止剤を使用している場合の濃度管理は定期的に行うこと。 注2) 高温変色している場合は火傷に注意すること。												

3 主ポンプ設備駆動設備
3-5 動力伝達装置(減速機(空冷))

機器名: 齒車減速機

機種形式: 空冷

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				月点検 目視	年 管 理 運 転	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	No. 1		No.					
全般		減速機全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。						
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。						
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。						
潤滑油系統	致	オイルシール	漏れ	—	E	(E)	—	—	油漏れがないこと。						
			潤滑油	量(質)	E	E	E	E	—	指定の油面であること。油漏れがないこと。					
		圧力		—	M	(M)	M	—	規定範囲内であること。						
		温度		—	M	(M)	M	—	規定値以内であること。				○		
		潤滑油濾過器	内部清掃	—	—	C	—	—	異物の混入、目詰まりがないこと。						
			エレメント	—	—	E、C	—	—	目詰まりがないこと。					(ペーパータイプは油交換時に交換)	
		配管	漏れ	E	E	(E)	E	E	フランジ継手部から油漏れがないこと。						
		減速機本体	致	据付部	架台	E	E	E	E	—	変形がないこと。				
水平度	—				—	M	—	—	運転に支障のないこと。						
基礎ボルト、ナット	—				—	H	—	—	緩みがないこと。						
振動	—				M	(M)	M	—	異常な振動がないこと。						
歯車箱	本体損傷			E	E	E	E	—	変形等異常がないこと。						
	軸受			温度	—	M	(M)	M	—	規定値以下の温度であること。					
				振動(速度)	—	M	(M)	M	—	異常な振動がないこと。				○	
摩耗				—	—	M	—	—	規定寸法以上に摩耗してないこと。						
歯車	摩耗			—	—	M	—	—	異常な摩耗がないこと。						
軸継手	致	軸継手	芯出し	—	—	M	—	—	芯ずれ・面ぶれが許容値以内であること。						
			摩耗	—	—	E	—	—	ゴムリングの風化、著しい摩耗がないこと。						
			締め具合	—	—	H	—	—	ボルト、ナットの緩みがないこと。						
計装機器	致	センサ類 (温度、圧力、流れ)	油圧スイッチ作動	—	E	(E),D	—	—	油圧に応じスイッチ動作が正常であること。						
			油温スイッチ作動	—	E	(E),D	—	—	油温上昇に応じスイッチ動作が正常であること。						
			フロースイッチ作動	—	E	(E),D	—	—	流れに応じスイッチの動作が正常であること。						
		ゲージ類 (温度、圧力、流れ)	温度計指示	—	—	E	—	—	停止状態でほぼ室温を示すこと。						
			温度計配管	—	—	E	—	—	亀裂や緩みがないこと。						
			圧力計指示	E	E	E	E	—	零点及び指示値が正常なこと。						
電磁弁		本体	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動すること。異常な温度上昇がないこと。						
			損傷、劣化	—	E	E	—	—	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。						
機付ファン	致	ファン	異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がないこと。						
			損傷	—	—	E	—	—	著しい損傷がないこと。						
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。						
ラジエータ	致	本体	腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。						
			漏れ	E	E	E	E	—	漏れがないこと。						
		ファン	異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がないこと。						
			損傷	—	—	E	—	—	著しい損傷がないこと。						
腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。									
特記事項		注)管理運転では、動作時に異音、配管漏れ、センサ類の動作、温度、振動などを確認する。													

4 系統機器設備
4-1-1 燃料系統(タンク類-屋外タンク設備)

機器名：燃料貯油槽

機種形式：屋外タンク型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)								※3 点検結果の判定基準		※4 傾向管理	
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)								○ △ ×	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。 現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。 現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。		○

装置区分	※1 装置等の 特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要
				月 目視	点検 管理 運転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
全般		燃料系統全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。			
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。			
燃料小出槽	致	本体	ドレン抜き	—	—	A	—	—	水分が混入していないこと。			
			漏洩等	E	E	E	E	—	漏れがないこと。			
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。			
			油量	E	E	E	E	—	油面計を確認し、異常な低下がないこと。			
			点検マンホール	—	—	E	—	—	異常及び損傷がないこと。			
			槽内の汚れ	—	—	E	—	—	汚れがないこと。			
		油面計	取付部の緩み	—	—	H	—	—	緩みがないこと。			
			フロートスイッチ	—	—	D	—	—	動作不良、誤操作がないこと。			
			フロートゲージ	—	—	E	—	—	損傷、汚れがないこと。清掃等の実施。			
			指示状況	E	E	E	E	—	指示値が正常なこと。			
		配管・弁	外観	—	E	E	—	E	漏れがないこと。			
			腐食等	—	—	E	—	—	著しい腐食、劣化がないこと。			
燃料貯油槽（屋外タンク）	致	基礎等	鋼製架台、梯子等	—	E	E	—	—	変形、亀裂、損傷、腐食の有無			
			防油堤	—	—	E	—	E	損傷がないこと。			
			構造物	—	E	E	—	E	損傷がないこと。			
		基礎等	地盤面	—	E	E	—	—	くぼみ等の有無及び排水の適否			
			犬走り、法面及びコンクリートリング	—	E	E	—	—	変形、亀裂、損傷の有無			
			架台、階段、手摺	—	E	E	—	—	変形、亀裂、損傷、腐食の有無			
		タンク本体	全般	E	E	E	—	E	変形、損傷がないこと。			
			不等沈下の有無	—	—	E	—	—	レベル計等による沈下測定			
			漏洩の有無	—	E	E	—	E	漏れがないこと(漏洩検知管などによる)。			
		底板	全般	—	E	E	—	E	漏れ、腐食、変形がないこと。			
			脚部	—	—	E	—	—	変形、損傷の有無			
			固定ボルト	—	—	E	—	—	腐食、ゆるみ等の有無			(目視又は打診)
		測板	全般	—	E	E	—	E	漏れ、変形、亀裂がないこと。			
			塗装状況	—	—	E	—	—	腐食等の有無			
		点検マンホール	全般	—	E	E	—	E	変形、亀裂、腐食等がないこと。			
			取付ボルト	—	—	E	—	—	折損等の有無			
		通気管	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形がないこと。			
			付属部品の状況	—	—	E	—	—	異常がないこと。			
		緊急排気弁	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形がないこと。			
			付属部品の状況	—	—	E	—	—	異常がないこと。			
		注入管	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形、接続部の異常がないこと。			
			付属部品の状況	—	—	E	—	—	異常がないこと。			
		払出管	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形、接続部の異常がないこと。			
			付属部品の状況	—	—	E	—	—	異常がないこと。			
		返油管	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形、接続部の異常がないこと。			
			漏洩検知管	E	E	E	—	E	損傷、変形がないこと。			
		漏洩検知管	全般	E	E	E	—	E	損傷、変形がないこと。			
			付属部品の状況	—	—	E	—	—	異常がないこと。			

装 置 区 分	※1 装置 等 の 特 性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
				月 目 視	点 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
燃料貯油槽 (屋外タンク)		遠隔注油ボックス	注油蓋の開閉状況	E	E	E	—	E	しっかりと閉まること。			
			給油口	—	E	E	—	E	損傷がないこと。メッシュに異常がないこと。			
			格納箱	—	E	E	—	E	損傷、劣化がないこと。施錠できること。			
			鋼製架台、階段等	—	E	E	—	E	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。			
		油面計	全般	E	E	E	—	E	著しい損傷がないこと。			
			取付部	—	—	H	—	—	取付部の緩みがないこと。			
			格納箱	—	E	E	—	E	腐食及び劣化がないこと。			
			直読式液面計	—	E	E	—	E	損傷がないこと。指示値が正常なこと。			
			指示計 (一次側、二次側)	—	E	E	E	—	指示値が正常なこと。指示計間の誤差がないこと。			
		配管ピット	損傷	—	E	E	—	E	漏れ、変形、亀裂がないこと。			
			滞油、滞水	—	E	E	—	E	滞油、滞水がないこと。土砂等がないこと。			
			種別表示	—	—	E	—	—	配管上の表示が確認できること。			
	致	配管類	全般	—	E	E	—	E	漏れ、変形、損傷がないこと。			
			塗装状況	—	—	E	—	—	腐食等の有無			
			固定の適否	—	—	E	—	—	緩みがないこと。			
	致	配管用バルブ	漏れ	—	E	E	—	E	漏れがないこと。			
			損傷	E	E	E	—	E	著しい損傷がないこと。			
			開閉機能の適否	—	—	D	—	—	開閉がスムーズにできること。			
		タンクアース	結線状況	—	E	E	—	E	断線の有無			
			取付部のゆるみ等	—	—	E	—	—	緩みがないこと。			
接地抵抗値			—	—	M	—	—	基準値以下であること。				
	標識表示板	記載事項の適否	—	—	E	—	—	適正であること。				
		損傷	—	—	E	—	—	著しい損傷がないこと。				
		汚れ	—	—	E	—	—	著しい汚れがないこと。				
	保安距離	保安物件新設等の有無	—	—	E	—	—	該当物件がある場合は実測				
	保有空地	許可外物件存置の有無	—	—	E	—	—					
特記事項	注1) 管理運転前後には油量や漏れなどの確認を実施する 注2) 屋外・屋内タンクの点検整備は、上記点検項目のほか、法令に基づく点検項目及び方法により実施し、結果を記録保存する。											

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

機器名: 燃料移送ポンプ

機種形式: 歯車ポンプ

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No.	No.			
				目 視	管 理 運 転									
燃料移送ポンプ		ポンプ・電動機	全般	E	E	E	E	E	汚れ・傷・腐食等がないこと。 異常な摩耗や損傷がないこと。					
			ケーシング内注油	—	—	—	—	—	油が充填されていること。					
			漏れ	—	E	E	E	—	漏れがないこと。					
			運転状況	—	H	(H)	H	—	異常な振動、異常音がないこと。					
			軸受温度	—	—	(H)	—	—	異常な温度上昇がないこと。					
			電流	—	M	(M)	—	—	定格電流値以内であること。					
			電圧	—	M	(M)	—	—	定格電圧付近であること。					
			圧力計	—	E	(E)	E	—	指示値が正常なこと。					
			吐出し量	—	—	E	—	—	規定量であること。					
			吐出し圧力	—	—	(M)	—	—	規定圧力であること。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下でないこと。					(盤にて測定)
		軸継手	締り具合	—	—	H	—	—	ボルト・ナットの緩みがないこと。					
			芯出し	—	—	M	—	—	芯ずれ・面ぶれが許容値以内であること。					
			カップリングゴムの摩耗	—	—	H	—	—	ゴムリングの風化、著しい摩耗がないこと。					
		配管・弁	漏れ	—	—	E	—	—	漏れがないこと。					
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。					
			劣化	—	—	E	—	—	著しい劣化がないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
その他	接地線の断線	—	—	E	—	—	断線していないこと。							
	接地取付部の緩み等	—	—	H	—	—	緩みがないこと。							
	接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。							
付属機器	燃料複式油こし器	内部清掃	—	—	C	—	—	水分、異物がないこと。						
		エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
		エレメント	—	—	E	—	—	異物がないこと。						
	ウィングポンプ	全般	E	E	E	E	E	汚れ・傷・腐食等がないこと。						
		吐出し量	—	—	E	—	—	規定量であること。						
		吐出し圧力	—	—	(M)	—	—	規定圧力であること。						
		漏れ	—	E	E	E	—	漏れがないこと。						
特記事項		注) 燃料貯油槽については日常量の記録を要する。												

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

機器名: 空氣壓縮機

機種形式: 空冷立型2段壓縮型

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要
				月点検		年 運 転 時 点 検	臨 時 点 検	No. 1		No. 2				
				目 視	管 理 運 転									
全 般		始動空気系 統全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。					
空 気 圧 縮 機	致	圧縮機・電動 機(エンジン を含む)	全般	E	E	E	E	—	汚れ・傷・腐食・油漏れ、異常な摩耗や損傷 がないこと。					
			潤滑油量	E	E	E	E	—	指定の油面であること。 油漏れがないこと。					
			冷却水	E	E	E	E	—	規定量であること。					
			フィルタ	—	—	C	—	—	清掃状況					
			Vベルト	—	—	A	—	—	緩んでいないこと。					
			アンローダ弁	—	D	A	D	—	運転停止での開閉動作に異常のないこと。					
			安全弁	—	—	D	—	—	手動にて正常に作動(吹き出)すること。					
			振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動がないこと。					
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がないこと。					
			圧力	—	E	(E)	E	—	規定圧に達していること。					
			充填時間	—	—	M	—	—	空気槽が規定圧になるまでの時間計測				○	
			自動ON－OFF作動	—	—	E	E	—	圧力スイッチにより、正常に作動すること。					
	絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					(盤にて測定)		
		計器	圧力計	—	—	E	—	—	零点や指示値が正常なこと。					
	致	配管・弁	漏れ	—	—	E	—	E	漏れがないこと。					
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。					
			劣化	—	—	E	—	—	著しい劣化がないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
始 動 空 気 槽	致	本体	漏れ	—	—	E	—	E	漏れがないこと。					(各2台)
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
			ドレン抜き	—	A	A	A	—	水分が溜まっていないこと。					
			損傷	—	—	E	E	E	著しい損傷がないこと。					
			ふたの締付けボルト	—	—	H	—	—	緩みがないこと。					
	計器	圧力計	E	E	E	—	—	零点や指示値が正常なこと。					(各2台)	
		圧力スイッチ	—	E	(M)	—	—	圧力に応じ正常に作動すること。						
	致	配管・弁	漏れ	—	—	E	—	E	漏れがないこと。					
			損傷	—	—	E	—	E	著しい損傷がないこと。					
			腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
特記 事項		注) 管理運転前後には潤滑油量などの確認を実施する。												

4 系統機器設備
4-5 滿水系統

機器名: 真空ポンプ

機種形式: 水封式(補水槽付)

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2				判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				目視	管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検		臨 時 点 検	No. 1	No. 2			
全般		満水系統全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。					
		満水状況	満水時間	—	M	(M)	—	—	過去の満水時間と著しい変化がないこと。					
真空ポンプ	致	ポンプ・電動機	全般	E	E	E	E	—	汚れ・傷・腐食等がないこと。異常な摩耗や損傷がないこと。					
			潤滑油量	E	E	E	E	—	指定の油面であること。 油漏れがないこと。					
			振動	—	H	H	E	—	異常な振動がないこと。					
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。					
			電流	—	M	(M)	—	—	定格電流値以内であること。					
			電圧	—	M	(M)	—	—	定格電圧付近であること。					
			軸受温度	—	H	(H)	—	—	異常な温度上昇がないこと。					
			グランド温度	—	H	(H)	—	—	異常な温度上昇がないこと。					
			最大真空度	—	—	E	—	—	規定の最高真空度が得られること。					
			回転の滑らかさ	—	H	H	—	—	手回しで滑らかなこと。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					(盤にて測定)
			真空計	—	—	E	—	—	指示値が正常なこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
			軸継手	締り具合	—	—	H	—	—	ボルト・ナットの緩みがないこと。				
		芯出し		—	—	M	—	—	芯ずれ・面ぶれが許容値以内であること。					
		カップリングゴムの摩耗		—	—	H	—	—	ゴムリングの風化、著しい摩耗がないこと。					
		配管・弁	漏洩の有無	E	E	E	—	—	漏れがないこと。					
			損傷、劣化	E	E	E	—	E	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。					
塗装	—		—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。							
電動弁	致	吸気弁	作動	—	—	E	E	—	規定の開閉時間で円滑に作動すること。					
			漏洩の有無	—	E	E	—	E	漏れがないこと。					
			損傷、劣化	E	E	E	—	E	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					
		真空破壊弁	作動	—	E	E	E	—	規定の開閉時間で円滑に作動すること。					
			漏洩の有無	—	E	E	—	E	漏れがないこと。					
			損傷、劣化	E	E	E	—	E	著しい損傷、腐食及び劣化がないこと。					
補給水槽	致	本体	水位	—	E	E	E	—	規定量あること。					
			ボールタップの動作	—	E	D	—	—	開閉・止水に異常がないこと。					
			ボールタップの損傷、汚れ	—	—	C、E	—	—	緩み・摩耗がないこと。汚れがないこと。					
			水槽内部の汚れ	—	—	C、E	—	—	異常な汚れ・腐食等がないこと。					
			水槽の腐食	—	—	E	—	—	著しい腐食がないこと。					
			水抜き(冬期養生)	A	—	—	—	—	水槽内に水が溜まっていないこと。					(凍結対策)
			塗装	—	—	E	—	—	腐食及び劣化がないこと。					
特記事項	注) 管理運転前後には潤滑油量などの確認を実施する。													

4 系統機器設備
4-6 給排気ファン

機器名: 給排気ファン

機種形式: 有圧換気扇、消音器ほか

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)

X	交換	M	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	C	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要
				月 目 視	点 検 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
ポンプ室給気ファン		ファン	運転状況	—	E	D	—	—	始動・運転が円滑であること。			(4台)
			振動、温度	—	E	H	H	—	異常な振動、温度上昇がないこと。			
			異常音	—	S	S	—	—	異常音がないこと。			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以上あること。			(盤にて測定)
		ダクト類	ダクトの腐食、劣化	—	E	E	—	—	閉塞や腐食による破損、漏れのないこと。			
			シャッタ、防火ダンパ	—	E	D	—	—	損傷、劣化、開閉動作の異常がないこと。			
			防雪フード	E	E	E	—	—	損傷、劣化がないこと。汚れがないこと。			
		消音器	腐食	—	—	E	—	—	消音器に閉塞、破損のないこと。			
			劣化	—	E	E	E	—	劣化(変形、損傷)、漏れがないこと。			
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出			
ポンプ室排気ファン		ファン	運転状況	—	E	D	—	—	始動・運転が円滑であること。			(2台)
			振動、温度	—	E	H	H	—	異常な振動、温度上昇がないこと。			
			異常音	—	S	S	—	—	異常音がないこと。			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以上あること。			(盤にて測定)
		ダクト類	ダクトの腐食、劣化	—	E	E	—	—	閉塞や腐食による破損、漏れのないこと。			
			シャッタ、防火ダンパ	—	E	D	—	—	損傷、劣化、開閉動作の異常がないこと。			
			防雪フード	E	E	E	—	—	損傷、劣化がないこと。汚れがないこと。			
		消音器	腐食	—	—	E	—	—	消音器に閉塞、破損のないこと。			
			劣化	—	E	E	E	—	劣化(変形、損傷)、漏れがないこと。			
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出			
発電機室給気ファン		ファン	運転状況	—	E	D	—	—	始動・運転が円滑であること。			(1台)
			振動、温度	—	E	H	H	—	異常な振動、温度上昇がないこと。			
			異常音	—	S	S	—	—	異常音がないこと。			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以上あること。			(盤にて測定)
		ダクト類	ダクトの腐食、劣化	—	E	E	—	—	閉塞や腐食による破損、漏れのないこと。			
			シャッタ、防火ダンパ	—	E	D	—	—	損傷、劣化、開閉動作の異常がないこと。			
			防雪フード	E	E	E	—	—	損傷、劣化がないこと。汚れがないこと。			
		消音器	腐食	—	—	E	—	—	消音器に閉塞、破損のないこと。			
			劣化	—	E	E	E	—	劣化(変形、損傷)、漏れがないこと。			
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出			
発電機室排気ファン		ファン	運転状況	—	E	D	—	—	始動・運転が円滑であること。			(1台)
			振動、温度	—	E	H	H	—	異常な振動、温度上昇がないこと。			
			異常音	—	S	S	—	—	異常音がないこと。			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以上あること。			(盤にて測定)
		ダクト類	ダクトの腐食、劣化	—	E	E	—	—	閉塞や腐食による破損、漏れのないこと。			
			シャッタ、防火ダンパ	—	E	D	—	—	損傷、劣化、開閉動作の異常がないこと。			
			防雪フード	E	E	E	—	—	損傷、劣化がないこと。汚れがないこと。			
		消音器	腐食	—	—	E	—	—	消音器に閉塞、破損のないこと。			
			劣化	—	E	E	E	—	劣化(変形、損傷)、漏れがないこと。			
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出			
特記事項												

5 電源設備

5-1 自家発電設備(自家発電機盤)

機器名： 自家発電機盤

機種形式： 搭載型(始動用充電器付)

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 () 書きは運転時実施

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理

○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
---	-------------------------

装置区分	※1 装置等の 特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月点検 目視	年 管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2			
全般		自家発電機盤全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化がないこと。					
自家 発電 機盤	致	盤面	発錆、汚れ	E	E	E	—	—	発錆、汚れがないこと。					
			扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。施錠、解錠が容易であること。換気口フィルタに目づまりがないこと。					
		盤内	汚れ、異物、変色	E	E	E	—	—	汚れ、異物がないこと。小動物等の侵入がないこと。雨水の侵入や結露がないこと。					
			温度、湿度	—	—	(M)	—	—	盤内温度、湿度が基準値以下であること。					
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。					
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。					
		盤内器具	取付状態	—	—	E	E	E	盤内器具の取付、筐体に緩みがないこと。					
			配線状態	—	—	E	E	E	汚れがないこと。亀裂がないこと。接続部に緩みがないこと。過熱の変色がないこと。					
			端子 端子台の状態	—	—	E	—	E	異物、塵埃が付着していないこと。接続部に緩みがないこと。過熱による変色がないこと。絶縁部の破損、変形がないこと。					
			端子符号の脱落	—	—	E	—	—	脱落、読取不良のないこと。					
		全般	動作試験	—	D	(D)	—	—	連動、単独操作を行い、渋滞・誤動作がないこと。電圧、周波数、電流、電力等の値が正常なこと。上記以外の故障信号等は模擬入力し正しく動作すること。					
			動作確認	—	H	(H)	H	—	動作不良、誤操作がないこと。					
		操作スイッチ	取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。変色、接点部の荒れがないこと。					
			動作確認	—	E	E	E	—	零点及び指示計値が正常であること。					(調整は2年毎)
		指示計	取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。					
			点灯状況、取付状態、汚れ	—	E	E	E	E	正常に点灯すること。 取付、接続部に緩みがないこと。汚れがないこと。破損がないこと。					
		保護装置	保護リレーの動作	—	—	D	—	—	設定値での動作が正常であること。					(調整は2年毎)
			警報装置の異常	—	E	E	—	—	保護リレー、センサが正常に動作すること。					
			センサの動作	—	—	D	—	—	温度、圧力、速度、フロースイッチ等の保護センサが正常に動作すること。					
		配線・漏電用遮断器	開閉動作	—	—	(D)	—	—	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。					
			発錆、汚れ	—	—	E	—	—	発錆、汚れがないこと。					
			過熱	—	H	H	—	—	過熱による変色がないこと。					
			異常音	—	S	(S)	—	—	異常音がないこと。					
		計器用変成器	設定器・リレー等接触部の確認	—	—	(D)	—	—	接触部に異常がないこと。					
			端子の汚れ、緩み、蓄電池液面、沈殿物、極板の汚れ、脱落、セパレータの破損	E	E	E	—	E	端子の汚れ、緩み、蓄電池液面、沈殿物、極板の汚れ、脱落、セパレータの破損がないこと。					
		AVR	支持台の腐食、損傷	—	—	E	—	E	腐食、損傷、塗装のはがりがないこと。					
			端子電圧	—	M	M	—	—	基準値であること。					(代表電池にて)
			均等充電	—	A	A	—	—	充電電圧値が正常であること。					(充電実施)
			充電装置の動作	—	—	D	—	—	動作に異常がないこと。					
特記事項		始動用蓄電池盤	始動用蓄電池	E	E	E	—	E	端子の汚れ、緩み、蓄電池液面、沈殿物、極板の汚れ、脱落、セパレータの破損がないこと。					
			支持台の腐食、損傷	—	—	E	—	E	腐食、損傷、塗装のはがりがないこと。					
特記事項		始動用蓄電池盤	端子電圧	—	M	M	—	—	基準値であること。					(代表電池にて)
			均等充電	—	A	A	—	—	充電電圧値が正常であること。					(充電実施)
特記事項		始動用蓄電池盤	充電装置の動作	—	—	D	—	—	動作に異常がないこと。					
			充電装置の動作	—	—	D	—	—	動作に異常がないこと。					

施設名： 米里排水機場

点検実施日： 令和 〇 年 〇 月 〇 日

5 電源設備

5-2 自家発電設備(ディーゼル機関)

機器名： 発電機用ディーゼル機関

機種形式： 4サイクルディーゼル機関(空冷)

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 () 書きは運転時実施

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	—	—	点検対象外

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理

○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
---	-------------------------

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				目視	月点検 管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2			
全般		ディーゼル機 関全般	異常、損傷	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。					
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音のないこと。					
			塗装	—	—	E	—	—	塗装の剥離や劣化のないこと。					
機関本体	致	台板	締まり具合、損傷	E	E	E	E	—	緩み、損傷がないこと。					
			水平度	—	—	—	—	—	運転に支障のないこと。					
		シリンダヘッド	ヘッドガスケットの劣化	—	—	—	—	—	劣化がないこと。					
			弁の摩耗パネのへたり	—	—	—	—	—	摩耗、へたりがないこと。					
			タペットの間隙	—	—	A	—	—	タペットの間隙(ピストン圧縮・TOPでチェック)					
		クランク室	シリンダライナの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					(連結棒本体、歯車、ピストンブッシュを含む)
			コンロッド金属の摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					
			クランクシャフトの摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					
			クランクシャフト金属の摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					
			ボルトの緩み	—	—	T	—	—	緩みがないこと。					
			カム軸の摩耗	—	—	—	—	—	摩耗がないこと。					
			デフレクション	—	—	M	—	—	計測値がメーカーの規定値以内であること。				○	
			クランクシャフトの固着	—	D	—	—	—	引っかかりがないこと(ターニング)。					(歯車、軸受含む)
		過給機	フィルタの状況	—	—	E	—	—	異物がないこと。					
			振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。					
			異常音	—	S	(S)	S	—	異常音が発生していないこと。					
			油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。					(油ダメ付のみ 2年毎に交換)
			入口温度	—	M	(M)	—	—	異常な温度上昇がないこと。				○	
			本体	—	—	—	—	—	傷、へこみがないこと。					
		ピストン	内部状況	—	—	E	—	—	過給器内部に腐食が発生していないこと。					
			ピストンの摩耗	—	—	—	—	—	異常な摩耗がないこと。					(ピストンピン、排気弁装置部、排気弁本体含む)
			ピストンリング摩耗	—	—	—	—	—	異常な摩耗がないこと。					
		调速機	調整	—	—	—	—	—	調整(ガバナバネ、速度設定ハンドル、軸受け、潤滑油、燃料ラック、駆動歯車を含む)					
		外部軸受	油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。					(フライホイール含む)
			振動(速度)	—	M	(M)	M	—	異常な振動が発生していないこと。					
			温度	—	H	(H)	H	—	異常な温度になっていないこと。					
			摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。					
冷却水系統	致	内部冷却水ポンプ	振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。					
			摩耗、劣化	—	—	—	—	—	摩耗、劣化していないこと。					
			配管漏れ	E	E	(E)	E	E	漏れがないこと。					
			配管腐食	—	—	—	—	—	腐食していないこと。					
			配管振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。					
			バルブ開閉	—	—	E	E	—	開閉できること。					
			バルブ劣化	—	—	—	—	—	劣化していないこと。					
			空気抜き	E	E	(E)	E	—	空気抜き					
		温調弁	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。					
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。					
		水質検査	水質	—	—	(M)	—	—	水質(不凍液等を使用している場合の濃度管理は1年毎)。					

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				目視	月点検 管理 運轉	年 点 検	運 轉 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
潤滑油系統	致	内部潤滑油ポンプ	振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。					(潤滑油系統含む)	
			作動	—	S	(S)	S	—	正常に作動すること。						
			配管漏れ	E	E	E	E	E	漏れがないこと。						
		初期潤滑油ポンプ	作動	—	S	(S)	S	—	正常に作動すること。					(圧力調整弁、電動機含む)	
			配管漏れ	E	E	E	E	E	漏れがないこと。						
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	絶縁劣化していないこと。						
			振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
		機関オイルパン	オイルパン油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。					(オイル交換、タンク内清掃は2年毎)	
	オイルパン内腐食		—	—	—	—	—	腐食していないこと。							
	潤滑油濾過器	内部清掃	—	—	C	—	—	異物がないこと。					(ペーパータイプは油交換時に交換)		
		エレメント	—	—	—	—	—	異物がないこと。							
	致	潤滑油冷却器	漏れ	E	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			腐食(エレメント)	—	—	—	—	—	腐食していないこと。						
			劣化(エレメント)	—	—	—	—	—	劣化していないこと。						
			防蝕亜鉛の消耗	—	—	E	—	—	消耗していないこと。						
			ドレン	—	—	A	—	—	ドレン排出						
		潤滑油	温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。				○		
	圧力		—	M	(M)	M	—	圧力が正常であること。							
性状分析	—		—	M	—	—	性状分析								
燃料系統	致	燃料噴射ポンプ	ラックの動作、継手	—	H	H	H	—	引っかけがないこと。					(空気混入、タペット、カム軸、燃料ラック、吸気弁本体を含む)	
			エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
			ブランジャ・吐出し弁劣化	—	—	—	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	E	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			油量	E	E	E	E	—	油量が適切であること。						(油ダメ付のみ、2年毎に交換)
			異物混入	—	—	E	—	—	異物がないこと。						
			突始め調整ボルト緩み	—	—	T	E	—	緩みがないこと。						
		噴射時期	—	—	M	—	—	噴射時期が適切であること。							
	燃料濾過器	内部清掃	—	—	C	—	—	水分、異物がないこと。					(水分チェック)		
		エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。							
		エレメント	—	—	E	—	—	異物がないこと。						(ペーパータイプは油交換時に交換)	
	燃料弁	噴霧テスト	—	—	A	—	—	噴霧テスト噴口(詰り、後タレチェック)					(噴口詰り、後タレチェック)		
		摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。							
		漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。							
	致	高圧管	管内エア抜き	—	—	A	—	—	気泡がないこと。						
			漏れ(亀裂)	—	E	(E)	E	E	漏れ(亀裂)がないこと。						
			振動	—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。						
	燃料供給ポンプ	摩耗	—	—	—	—	—	摩耗していないこと。							
		配管	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			漏れ	E	E	(E)	E	E	漏れがないこと。						
振動			—	H	(H)	H	—	異常な振動が発生していないこと。							
ドレン量	—		—	E	—	—	ドレン排出								
電気始動系統	致	セルモータ	ブラシの状態	—	—	E	—	—	ブラシの状態確認						
			作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。						
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
	予熱栓	作動	—	E	(E)	—	—	正常に作動していること。					(付属の場合)		
		劣化	—	E	E	—	—	劣化していないこと。							
	致	電磁スイッチ	作動	—	E	(E)	E	—	正常に作動していること。					(ケーブル、切替開閉器類、補助継電器類、制御電源、配線用遮断器含む)	
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
		停止ソレノイド	作動	—	D	(D)	D	—	正常に作動していること。						
劣化	—		—	E	—	—	劣化していないこと。								

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要	
				目視	月点 管理 運 転	年 点 運 転 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2				
計装機器	致	センサ類 (温度、圧力、流れ)	水温スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			油温スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			油圧スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			空気圧スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			フロースwitch作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			速度スイッチ作動	—	E	D	—	—	正常に作動していること。						
			ゲージ類 (温度、圧力、回転他)	冷却水温度計指示	—	E	(E)	E	—	指示値が適切であること。					
	潤滑油温度計指示	—		E	(E)	E	—	指示値が適切であること。							
	排気温度計指示	—		E	(E)	E	—	指示値が適切であること。					(パラツキチェック)		
	冷却水圧力計指示	E		E	E	E	—	零点及び指示値が適切であること。							
潤滑油圧力計指示	E	E		E	E	—	零点及び指示値が適切であること。								
回転計指示	—	E		(E)	E	—	指示値が適切であること。					(変動値チェック)			
消音器・排気管	致	消音器	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			ドレン抜き	—	—	A	—	—	ドレン排出						
	致	排気管	腐食	—	—	E	—	—	腐食していないこと。						
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			漏れ	—	E	(E)	E	—	漏れがないこと。						
			排気口の閉塞	—	—	E	—	—	閉塞していないこと。						
冷却装置	致	ラジエータ	水量	E	E	E	E	—	水量が減っていないこと。						
			漏れ	—	E	E	E	—	漏れがないこと。						
			キャップ耐圧	—	E	(E)	E	—	キャップが閉まっていること。					(圧力キャップの場合)	
			劣化	—	—	E	—	—	劣化していないこと。						
			ホース劣化	—	—	H	—	—	劣化していないこと。						
			ファンベルト	E	E	E	—	—	傷、緩みがないこと。						
		空気冷却器	腐食、劣化	—	—	—	—	—	腐食、劣化していないこと。						
	ドレン		—	E	(E)	E	—	ドレン排出							
運転状況		運転状況	異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がしていないこと。						
			排気色	—	E	(E)	E	—	排気色の確認						
			ミストの状況	—	E	(E)	E	—	ミスト量の確認						
			給気管ドレン抜き	—	A	(A)	A	—	ドレン状況の確認						
			給気圧力	—	M	(M)	M	—	給気圧力に異常のないこと。						
			冷却水管エア抜き	—	A	(A)	A	—	エア溜まりがないか。						
			冷却水温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。					○	
			過給機停止所要時	—	—	(M)	—	—	過給機停止所要時間計測						
			燃料消費量	—	—	—	—	—	燃料消費量が規定値以下であること。						
			各気筒排気温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇または全気筒で温度の異常なバラツキがないこと。					○	
			排気温度	—	M	(M)	M	—	異常な温度上昇がないこと。						
			発熱	—	—	(H)	H	—	異常な発熱がないこと(軸受、クランクケース等)						
			ラック目盛	—	E	(E)	E	—	指示値が正常であること。					(全シリンダ)	
			回転速度	—	M	(M)	M	—	規定値付近であること。						
			始動時間	—	M	(M)	M	—	計測実績値と比べて著しく異なるらないこと。						
			停止時間	—	M	(M)	M	—	計測実績値と比べて著しく異なるらないこと。						
			保護回路による機関の停止確認	断水	—	—	D	—	—	点検、テスト調整					
				冷却水温	—	—	D	—	—	点検、テスト調整					
	潤滑油圧	—		—	D	—	—	点検、テスト調整							
	過速度	—		—	D	—	—	点検、テスト調整					(単独運転にて)		
	運転後の確認	潤滑油プライミングポンプ運転	ターニングによる燃料ガスの排出	—	E	E	E	—	プライミング状況の確認						
			ターニングによる燃料ガスの排出	—	A	A	A	—	ターニングによる燃料ガスの排出					(2回転またはエアラン運転後)	
			クラックケース内軸受	—	—	H	H	—	異常な発熱がないこと。						
	特記事項	注1) 管理運転では、動作時に振動、異音、油漏れ、センサ類などを確認する。 注2) 管理運転前後に油量や配管漏れなどの確認を実施する。 注3) 高温変色している場合火傷に注意すること													

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

機器名: 発電機

機種形式: 三相交流発電機

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

[illegible]

5 電源設備
5ー7 受変電設備(低圧受変電)

機器名：低圧受電盤、引込開閉器盤ほか

機種形式：自立型(低圧受電盤)、壁掛型(引込開閉器盤)

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)									
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)									
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視		
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触		
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外				

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

注) 本施設の年点検時には目視点検を行うこと(当該設備の年点検は別途業務)。

※3 点検結果の判定基準										※4 傾向管理	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。									○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。										
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。										

装置区分	※1 装置等の 特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要		
				月点検 目視	年 管理 運轉	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	点 検						
全般		受電設備全般	動作確認	—	D	○	D	—	正常に動作すること。					
			異常、損傷	E	E	○	E	E	異常、損傷、塗装の剥離・劣化がないこと。					
			ハンドホールの異常	—	E	○	—	E	ハンドホール内部の損傷、浸水がないこと。					
受電部		引込柱	汚れ、ひび割れ	—	E	○	—	—	汚れ、ひび割れがないこと。					
			傾斜	—	E	○	—	—	傾斜がないこと。					
			腕金の異常	—	E	○	—	—	発錆、変形、腐食がないこと。					
			碍子の異常	—	E	○	—	—	汚れ、ひび割れがないこと。					
			玉碍子の破損	—	E	○	—	—	破損がないこと。					
			支持クリップの脱落	—	E	○	—	—	脱落がないこと。					
			電線・支持物	電線の高さ、工作物・樹木との離隔距離	—	E	○	—	—	離隔が保たれていること。				
		標識・保護柵の状況		—	E	○	—	—	異常がないこと。					
		支線グリップの脱落		—	E	○	—	—	脱落がないこと。					
		腕木・碍子・支線・保護柵等の異常		—	E	○	—	—	損傷、腐食がないこと。					
		電線の碍子捕縛状況		—	E	○	—	—	異常がないこと。					
		ケーブル	露出部の亀裂、損傷	—	E	○	—	—	亀裂、損傷、腐食がないこと。					
			引込開閉器盤	盤面の状態	E	E	○	—	—	異常がないこと。				
		扉の開閉・施錠		—	—	○	—	H	異常がないこと。					
		メータの零点		—	—	○	E	—	零点にズレがないこと。					
		表示灯点灯状態		—	—	○	E	E	異常がないこと。					
		計器・切換開閉器		—	—	○	—	—	異常がないこと。					
		機器取付・配線の状態		—	—	○	E	—	異常がないこと。接続部のゆるみがないこと。					
		主回路導体の状態		E	E	○	—	—	異常がないこと。					
		配線端子符号の脱		—	—	○	—	—	脱落がないこと。					
		ケーブル端子の状態		—	—	○	—	—	異常がないこと。					
		警報装置の異常		—	—	○	—	—	異常がないこと。					
		絶縁抵抗	—	—	○	—	—	規定値以上であること。			(測定結果は別紙)			
		配電設備	致	低圧受電盤	盤面の状態	E	E	○	—	—	異常がないこと。			
					扉の開閉・施錠	—	—	○	—	H	異常がないこと。			
					メータの零点	—	—	○	E	—	零点にズレがないこと。			
表示灯点灯状態	E				E	(E)	E	E	異常がないこと。					
計器・切換開閉器	E				E	○	—	—	異常がないこと。					
自家発電運轉時間計	—				E	○	E	—	運轉時間に正確に追隨していること。					
操作機構	—				D	○	—	—	異常がないこと。					
機器取付・配線の状態	—				—	○	E	—	異常がないこと。					
主回路導体の状態	E				E	○	—	—	異常がないこと。					
配線端子符号の脱落	—				—	○	—	—	脱落がないこと。					
ケーブル端子の状態	—				—	○	—	—	異常がないこと。					
警報装置の異常	—				—	○	—	—	異常がないこと。					
接続部	—				—	○	—	—	緩みがないこと。					
絶縁抵抗	—				—	○	—	—	規定値以上であること。			(測定結果は別紙)		
接地抵抗	—				—	○	—	—	規定値以内であること。			(1F接地抵抗箱)		
保護継電器の動作	—			—	○	—	—	動作に異常がないこと。						
計器校正	—			—	○	—	—	零点、指示値が正しいこと。						
特記事項														

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

機器名: 直流電源裝置

機種形式: 自立型

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

[illegible]

6 除塵設備
6-1 除塵機、貯留設備

機器名: 除塵機、貯留設備

機種形式: 自動除塵機、塵芥コンテナ

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)						
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)						
X	交換	C	清掃	W	分解	E
A	調整	M	測定	T	増縮	H
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外	
						目視 指触

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

装置区分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向 管理	摘 要	
				月 目 視	年 管 理 運 転	運 転 点 検	臨 時 点 検	No. 1		No. 2					
全般		清掃状態	汚れ	E	E	E	E	—	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。						
			ごみ、流木、土砂等	E	E	E	E	E							
		点検歩廊	腐食、損傷	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。						
			その他の構造物材	腐食、損傷	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。					
スクリーン	致	エプロン、スラ イドエプロン	腐食	E	E	E	—	—	支障となる腐食がないこと。						
			変形、損傷	E	E	E	E	E	支障となる変形、損傷がないこと。						
		スクリーン、フ レーム、整流 板	腐食	E	E	E	—	—	支障となる腐食がないこと。						
			変形、損傷	E	E	E	E	E	支障となる変形、損傷がないこと。						
		補助スクリー ン	腐食、変形、損傷	—	—	E	—	—	支障となる腐食、変形、損傷がないこと。						
			ごみ、土砂等	—	—	E	—	—	ごみ、土砂等の堆積がないこと。						
除塵機	致	減速機	潤滑油量	E	E	E	—	—	適正な油量であること。						
			油漏れ	E	E	E	—	—	油漏れがないこと。						
			軸受温度	—	H	(H)	H	—	異常な発熱がないこと。						
			振動(速度)	—	H	(H)	H	—	異常な振動がないこと。						
			電動機	フレーム温度	—	H	(H)	H	—	異常な発熱がないこと。					
		軸受温度	—	H	(H)	H	—	異常な発熱がないこと。							
		振動(速度)	—	H	(M)	H	—	異常な振動がないこと。							
		絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。							
		接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。							
		電流値	—	M	(M)	M	—	定格電流値以下であること。							
		異常音	—	S	(S)	S	—	異常音がないこと。							
		リミットスイッチ	作動	—	E	(D)	—	—	確実に作動すること。						
		致	駆動チェー ン・スプロケ ット	伸び	—	—	A	—	—	チェーンにたるみがないこと。伸びは許容 値以下であること。					
				摩耗	—	—	E	—	—	異常な摩耗がないこと。					
	損傷			—	—	E	—	E	支障となる損傷がないこと。						
	スクリュー テークアップ		作動	—	—	E	—	—	滑らかに作動すること。						
			腐食、損傷	—	—	E	—	—	スクリュー、レールに錆、損傷がないこと。						
	レーキ及び ローラ		レーキの異常、損傷	E	E	E	—	E	摩耗、変形、損傷がないこと。スクリーン バーとの噛合が適切なこと。						
		ローラの異常、損傷	E	E	E	—	E	摩耗、損傷がないこと。ローラがレーキガイ ドから外れていないこと。							
	緊急停止装 置	作動	—	E	(D)	—	—	確実に作動すること。							
貯留設備	コンテナ	コンテナの損傷	E	E	E	—	E	内外面に損傷がないこと。					(4台)		
		開閉状況	—	—	E	—	—	開閉動作に問題がないこと。					(4台)		
		吊具の損傷	E	E	E	—	E	吊板、吊ワイヤに損傷がないこと。					(1組)		
	走行部	損傷	—	—	E	—	—	ガイドレールに損傷がないこと。							
		走行状況	—	—	E	—	—	動作に問題がないこと。							
特記 事項		注) 管理運転前後には油量、部材の変形などの確認を実施する。													

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

6 除塵設備

機種形式: 屋外自立型

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2				判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要		
				月点検 目視	年管理 目視	運 点 検	臨 時 点 検						
全般		盤全体	清掃状態	E	E	E	E	—	著しい汚れ、ごみ等がないこと。				
			破損	E	E	E	E	—	破損がないこと。施錠が完全であること。				
			塗装状態	E	E	E	—	—	内外面に塗膜の剥れ、腐食がないこと。				
			内部乾燥状態	E	E	E	—	—	結露していないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	絶縁抵抗値が規定値以上あること。			(0.2MΩ : 200V)	
			接地抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下であること。			D種、避雷器	
		機器、計器類、スイッチ類(共通)	汚れ	E	E	E	—	—	汚れがないこと。				
			変色	E	E	E	—	—	変色がないこと。				
			端子、取付のゆるみ	E	E	E、H	—	E	端子、機器類の取付にゆるみがないこと。				
			異常音	—	E	S	—	—	異常音がないこと。				
破損			E	E	E	—	E	破損がないこと。					
配線・配管	致	盤内配線	配線状態	—	—	E	—	E	損傷がないこと。断線していないこと。				
		端子台	腐食	—	—	E	—	—	発錆がないこと。				
		取付ボルト	ゆるみ、脱落	—	—	E、H	—	E	ゆるみがないこと。			(Hの方法は打診)	
		配管	配管状態	—	—	E	—	E	割れ、腐食、取付の緩み、脱落がないこと。				
計器類		電流計	指示	—	E	E	E	—	零点及び指示計値が正常なこと。				
		電圧計	指示	—	E	E	E	E	零点及び指示計値が正常なこと。				
	致	操作スイッチ	作動テスト	—	D、E	D、E	D、E	—	開、閉、停止、切換が的確に作動すること。				
		表示灯	ランプテスト	—	D、E	D、E	—	E	点灯すること。				
		盤内蛍光灯	点灯、球切れ	—	—	D	—	E	点灯すること。				
開閉器類	致	電磁接触器	動作テスト	—	D	D	D	—	異常なく作動すること。				
			異常音	—	S	D、S	S	—	異常音、振動がないこと。				
			接点	—	—	D、S	—	—	変色がないこと。接点溶着がないこと。				
	致	漏電継電器	作動テスト	—	D	D	—	—	テストボタンを押して作動すること。				
			配線用遮断器	作動テスト	—	D	D	—	—	ON/OFFが確実にできること。			
			避雷器	ランプテスト	—	E	E、H	—	—	正常に点灯すること。ヒューズが正常なこと。			
			スペースヒータ	作動テスト	—	D	D	—	—	サーモスイッチが動作すること。			
リレー類	致	補助リレー	作動テスト	—	D	D、S、E	D	—	異常音、振動がないこと。				
			異常音	—	S	D、H、E	S	—	異常音がないこと。				
		3Eリレー	作動テスト	—	D	D	D	—	テストボタンを押して作動すること。				
			設定値確認	—	E	E	E	—	図面通りの設定値であること。				
		サーマルリレー	作動テスト	—	D	D	D	—	テストボタンを押して作動すること。				
		タイマ	設定値確認	—	E	E	E	—	所定の設定値にセットされていること。				
特記事項		注1) 管理運転前後には取付状態や汚損などの確認を実施すること。 注2) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。											

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

7 付屬設備
7-1 建築設備等

機器名: 建築構造物、建築設備

機種形式:

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注)Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装 置 等 の 特 性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要	
				目 視	月点検		年 点 検	運 転 時 点 検					臨 時 点 検
					管 理 運 転								
施設全般		建築構造物	外観	E	E	E	—	E	外壁、屋根、内壁、天井などの異常がない				
			ドア、シャッター	—	—	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
			窓	—	—	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
			排気口、給気口	—	—	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
			階段、タラップ等	—	—	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
			外構(敷地内)	—	—	E	—	—	外壁、屋上の損傷、異常がないこと。				
			外構(敷地内)	—	—	E	—	—	門、フェンス、通路の損傷、異常がないこと。				
			水路、吐水槽	—	—	E	—	—	汚れ、土砂・ゴミの発生状況				
			樋門ゲート室、管理	—	—	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
換気設備		換気ファン	運転状況	E	E	E	—	—	異常音がないこと。各部取付ボルト等のゆるみ、脱落等の異常がないこと。始動・運転が円滑であること。			監視室、トイレ	
			温度	—	—	H	—	—	異常な温度上昇がないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。			(盤にて測定)	
		シャッタ類	シャッタ、ダンパ	—	—	E	—	—	損傷、劣化、開閉動作の異常がないこと。				
			防雪フード	—	—	E	—	—	損傷、劣化がないこと。				
給排水設備		全般	衛生器具	E	E	E	—	—	損傷、異常がないこと。				
			配管類	E	E	E	—	—	漏れ、腐食、劣化がないこと。				
			上水用ボールタップ	E	E	E	—	—	漏れ、劣化がないこと。				
			水抜き	A	—	E	—	—	完全に水が抜けていること。			(凍結対策)	
			ルーフドレン	—	—	E	—	—	漏れ、損傷、異常がないこと。				
		所内排水ポンプ	配管、弁類	E	E	E	—	E	損傷、異常、腐食、劣化がないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以下に低下していないこと。			(盤にて測定)	
			電流	—	—	M	—	—	定格電流値以内であること。				
			電圧	—	—	M	—	—	定格電圧付近であること。				
			吐出し圧力	—	—	M	—	—	規定圧力であること。		○		
			水中ケーブルの劣化	—	—	E	—	—	外傷がないこと。				
			運転状況	E	E	E	—	—	異常がないこと。自動運転すること。				
			排水ピット、蓋	—	—	E	—	—	損傷、汚れ、土砂・ゴミの発生状況				
照明設備		全般	点灯状況	E	E	E	—	E	損傷、異常がないこと。				
			開閉器、点滅器、照明器具、コンセント等の損傷、過熱	—	—	E	—	—	錆、熱による変形がないこと。緩み、発熱等がないこと。配線に亀裂がないこと。				
			器具固定部緩み	—	—	H	—	—	緩み、ぐらつきがないこと。				
			電線類の損傷	—	—	E	—	—	汚れ、発錆、被覆の亀裂がないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	基準値以上であること。			(盤にて測定)	
			消火設備		全般	消火器	E	E	E	—	—	損傷、異常がないこと。	
標識類	E	E				E	—	—	損傷、異常がないこと。				
設置状況	—	—				E	—	—	損傷、異常がないこと。				
角落し設備	角落し設備	保管状況	E	E	E	—	—	所定の数量があること。 損傷のないこと。	—		現状、角落しなし。		
特記事項		注) 施設全般の点検項目のうち屋外での点検は、積雪期には行わないものとする。											

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

7 付属設備
7-2 天井クレーン

機器名: 天井クレーン

機種形式: 手動式床上操作式天井クレーン

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等の 特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向管理	摘 要	
				月 点 検 目 視	年 管 理 運 転	点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検					
天 井 ク レー ン		走行部	走行レール	E	E	E	E	E	走行レールの状態				
				E	E	E	E	—	車止め及びストッパの状態				
				E	E	E	E	—	走行範囲の障害物の有無				
			駆動部	E	E	E	E	—	走行車輪の状態				
				D	D	D	D	—	走行の運転状態				
		横行部	横行レール	E	E	E	E	E	横行レールの状態				
				E	E	E	E	—	車止め及びストッパの状態				
				E	E	E	E	—	横行範囲の障害物の有無				
			駆動部	E	E	E	E	—	横行車輪の状態				
				D	D	D	D	—	横行の運転状態				
		巻上装置部	ワイヤロープ	E	E	E	E	—	素線の断線の有無				
				E	E	E	E	—	摩耗、腐食、型くずれ等の有無				
				E	E	E	E	—	キンクの有無				
				E	E	E	E	—	ロープエンド等の異常				
				E	E	E	E	—	油塗布の状態				
			フックブロック	E	E	E	E	—	フックの回転状態				
				E	E	E	E	—	シーブ、シーブ溝等の状態				
				E	E	E	E	—	フックナットの回り止めの状態				
				E	E	E	E	—	亀裂、変形、摩耗、腐食の有無				
			フック	E	E	E	E	—	はずれ止めの状態				
				D	D	D	D	—	巻上、巻下の運転状態				
			給脂	ギヤ部、軸受等	E	E	E	E	—	歯車、ギアケースの給油・塗油状態			
					E	E	E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無			
			鋼構造物	サドル、クラブ	E	E	E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無			
ランウェイ、手摺等	E	E		E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無						
ガーター	E	E		E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無						
表示		E	E	E	E	—	各表示の確認						
特記事項		注1) クレーンの点検、整備は、法令に基づき行うものとする。 注2) 設備の仕様・用途に応じて年・月点検、臨時点検を実施し、結果を記録保存すること。 注3) 年点検は、該当する項目の点検を行うこと。 注4) クレーンを使用する場合、作業前点検を行うこと。											

8 ゲート設備

8-2 ラック式スライドゲート

機器名： 取水ゲート(電動)

機種形式： ラック式スライドゲート

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)									
※2 点検方法 () 書きは運転時実施									
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視		
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触		
D	動作確認	S	聴診	—			点検対象外		
注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。									
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。									

※3 点検結果の判定基準									
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。								
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。								
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。								

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月点検 目視	年 管理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No. 1	No. 2			
全般		清掃状態	汚れ	E	E	E	E	—	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。					
			ごみ、流木、土砂等	E	E	E	E	E	ごみ、流木、土砂等がないこと。					
		外観	損傷、変形	E	E	E	E	E	損傷、変形がないこと。					
		塗装	損傷、劣化	E	E	E	—	—	損傷、発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白垂化がないこと。がないこと。					
扉体	致	構造全体	振動	—	H	H	H	—	異常振動がないこと。					
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。					
			片吊り	—	—	M	—	—	異常な傾き(片吊り)がないこと。					
		・スキンプレート ・主桁 ・補助桁	変形	—	—	E	—	E	変形がないこと。					
			損傷	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
			板厚の減少	—	—	—	—	—	測定結果により判定のこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	E	—	割れがないこと。					
		クサビ	損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			扉体圧着状態	—	—	E	—	—	水密ゴムと戸当りにすきまがないこと。					
		致	ボルト、ナット、リベット	—	—	E,H	—	E	ゆるみ、脱落がないこと。					(Hの方法は打診)
			損傷、腐食(孔食)	—	E	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
支承部	致	摺動板	摩耗	—	—	E	—	—	摩耗がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			摺動状態	—	D	D	—	—	運転時に異常なく開閉すること。					
		サイドシュー	摩耗	—	—	E	—	—	摩耗がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
吊り金物	致	・吊り金物 ・吊りピン	損傷	E	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
水密部		水密ゴム	変形	—	E	E	—	—	変形がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	—	損傷がないこと。					
			劣化	—	—	E	—	—	劣化がないこと。					
			漏水	—	E	E	—	—	機能に支障がないこと。					
		ゴム押え板	変形	—	E	E	—	—	変形がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	—	損傷がないこと。					
取外し戸当り	致	・主レール ・補助レール	変形	E	E	E	—	E	変形がないこと。					
			損傷	E	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	—	E	割れがないこと。					
		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落	—	—	E	—	E	ゆるみ、脱落がないこと。					
			損傷、腐食(孔食)	—	—	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
埋設部	致	戸当り(底部)、(側部)、(上部)	変形	—	—	E	—	—	変形がないこと。					
			損傷、腐食(孔食)	E	E	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	割れがないこと。					
		コンクリート部	コンクリートの損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			コンクリートの漏水	—	—	E	—	—	機能に支障がないこと。					

装 置 区 分	※1 装 置 等 の 特 性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾 向 管 理	摘 要
				月 目 視	点 検 管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		No.	No.			
開 閉 装 置 動 力 部	致	主電動機	振動	－	H	H	H	－	異常振動がないこと。					
			異常音	－	S	S	S	－	異常音がないこと。					
			温度上昇	－	H	M	H	－	異常な温度上昇がないこと。					
			電流値	－	E	M	－	－	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。					
			電圧値	－	E	M	－	E	作動時の定格電圧が、±10%以内であること。					
			絶縁抵抗	－	－	M	－	－	絶縁抵抗値が規定値以上あること。					(0.2MΩ :200V)
			内部状態	－	－	－	－	－	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。					
			開閉速度	－	－	M	－	－	開閉速度が規定値内であること。				○	
			電磁制動機のすきま	－	－	E	－	－	ディスクのすき間値が規定範囲にあること。					
		手動装置	作動状態	－	D	D	D	－	円滑に開閉操作ができること。					
操作力	－		－	D	－	－	円滑に回転すること。 操作力が100N以下であること。							
制 動 部	致	制動機構	作動状態(セルフロック)	－	－	－	－	－	扉体が降下しないこと。					
		遠心ブレーキ	外観	－	－	E	－	－	発錆がないこと。					
			ライニングの厚さ	－	－	M	－	－	ライニング厚規定以上のこと。				○	
			作動状態	－	－	D	－	－	自重降下すること。					
			自重降下速度の測定	－	－	M	－	－	6m/min以下または開閉装置の仕様とoirのこと。					
減 速 部	致	減速機	振動	－	H	H	H	－	異常振動がないこと。					
			異常音	－	S	S	S	－	異常音がないこと。					
			温度上昇	－	H	H	－	－	異常な温度上昇がないこと。					
			漏油	－	E	E	E	E	漏油がないこと。					
			潤滑油量	－	E	E	－	－	油面計の規定内であること。					
			潤滑油劣化	－	－	E	－	－	ひどい濁りがなく、乳白色化してないこと。					
			内部状態	－	－	－	－	－	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。					
動 力 伝 達 部	致	切替装置	作動状態	－	D	D	D	－	円滑に切換ができること。					
			連動軸	変形	－	－	E	－	－	変形がないこと。				
		軸継手	損傷	－	E	E	E	E	損傷がないこと。					
			振動	－	H	H	H	－	異常振動がないこと。					
			異常音	－	S	S	S	－	異常音がないこと。					
			芯出し	－	－	－	－	－	異常な芯振れがないこと。					
			給油状態	－	－	E	－	－	油が供給されていること。劣化がないこと。					
			内部状態	－	－	－	－	－	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。					
扉 体 駆 動 部	致	ラックピン	摩耗	－	E	E	E	－	開閉装置メーカーの許容値以内であること。					
			給油状態	－	－	E	－	－	ラックピンにグリースが付着していること。					
		ラック棒	変形、損傷	－	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。					
			異常音	－	－	S	－	－	異常音がないこと。					
			ラックカバー	変形、損傷	－	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。				
保 護 装 置	致	過負荷防止機構	作動状態	－	－	D	－	－	過負荷防止機構が正常に作動すること。					
			作動状態	－	E	D	E	－	設定値にて正常に作動すること。					
		制限開閉器	変形、損傷	－	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。					
			リミットスイッチ	作動状態	－	E	D	E	－	設定値で正常に作動すること。				
開 度 計		機械式	作動状態	－	E	D	－	－	実揚程と指針表示が合致していること。					
			盤面の曇り	－	E	E	－	－	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。					
特 記 事 項		注1)管理運転点検は、管理上可能な範囲において開閉動作を確認し、各部位を点検する。 注2)年点検は、開閉動作を確認するとともに、全ての設備構成部位を点検し、異常の有無、劣化状況の判定、計測などを行う。												

8 ゲート設備

8-2 ラック式スライドゲート

機器名： 吐口ゲート(電動)、呑口ゲート(手動)

機種形式： ラック式スライドゲート

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (()書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	—	—	点検対象外

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) MIは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理

○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目
---	-------------------------

装置区分	※1 装置等の 特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要
				月点検 目視	年 管理 運転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検		吐 口 ゲ ー ト	吞 口 ゲ ー ト			
全般		清掃状態	汚れ	E	E	E	E	—	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。					
			ごみ、流木、土砂等	E	E	E	E	E	ごみ、流木、土砂等がないこと。					
		外観	損傷、変形	E	E	E	E	E	損傷、変形がないこと。					
		塗装	損傷、劣化	E	E	E	—	—	損傷、発錆、ふくれ、亀裂、はく離、変退色、白亜化がないこと。がないこと。					
扉体		構造全体	振動	—	H	H	H	—	異常振動がないこと。					
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。					
			片吊り	—	—	M	—	—	異常な傾き(片吊り)がないこと。					
		致 ・スキンプレート ・主桁 ・補助桁	変形	—	—	E	—	E	変形がないこと。					
			損傷	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
			板厚の減少	—	—	—	—	—	測定結果により判定のこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	E	—	割れがないこと。					
		クサビ	損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			扉体圧着状態	—	—	E	—	—	水密ゴムと戸当りにすきまがないこと。					
		致 ボルト、ナット、リベット	ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	ゆるみ、脱落がないこと。					(Hの方法は打診)
			損傷、腐食(孔食)	—	E	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
支 承 部		致 摺動板	摩耗	—	—	E	—	—	摩耗がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			摺動状態	—	D	D	—	—	運転時に異常なく開閉すること。					
		サイドシュー	摩耗	—	—	E	—	—	摩耗がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
吊り金物		致 ・吊り金物 ・吊りピン	損傷	E	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
水密部		水密ゴム	変形	—	E	E	—	—	変形がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	—	損傷がないこと。					
			劣化	—	—	E	—	—	劣化がないこと。					
			漏水	—	E	E	—	—	機能に支障がないこと。					
		ゴム押え板	変形	—	E	E	—	—	変形がないこと。					
			損傷	—	E	E	—	—	損傷がないこと。					
取 外 し 戸 当 り		致 ・主レール ・補助レール	変形	E	E	E	—	E	変形がないこと。					
			損傷	E	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	—	E	割れがないこと。					
		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落	—	—	E	—	E	ゆるみ、脱落がないこと。					
			損傷、腐食(孔食)	—	—	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
中 間 振 止		中間軸受	変形、損傷	—	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。	—				
			劣化	—	—	E	—	—	劣化がないこと。	—				

装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	※2 点検方法				判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘 要	
				月 目 視	点 管 理	年 運 転 点 検	臨 時 点 検		吐 ロ ゲ ー ト	吞 ロ ゲ ー ト				
埋設部	致	戸当り(底部、(側部)、(上部))	変形	—	—	E	—	変形がないこと。						
			損傷、腐食(孔食)	E	E	E	—	E	損傷がないこと。腐食(孔食)がないこと。					
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	割れがないこと。					
		コンクリート部	コンクリートの損傷	—	E	E	—	E	損傷がないこと。					
			コンクリートの漏水	—	—	E	—	—	機能に支障がないこと。					
開閉装置動力部	致	主電動機	振動	—	H	H	H	—	異常振動がないこと。		—			
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。		—			
			温度上昇	—	H	M	H	—	異常な温度上昇がないこと。		—			
			電流値	—	E	M	—	—	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。		—			
			電圧値	—	E	M	—	E	作動時の定格電圧が、±10%以内であること。		—			
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	絶縁抵抗値が規定値以上あること。					(0.2MΩ:200V)
			内部状態	—	—	—	—	—	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		—			
			開閉速度	—	—	M	—	—	開閉速度が規定値内であること。		—		○	
			電磁制動機のすきま	—	—	E	—	—	ディスクのすき間値が規定範囲にあること。		—			
		手動装置	作動状態	—	D	D	D	—	円滑に開閉操作ができること。					
			操作力	—	—	D	—	—	円滑に回転すること。 操作力が100N以下であること。					
制動部	致	制動機構	作動状態(セルフロック)	—	—	—	—	—	扉体が降下しないこと。					
		遠心ブレーキ	外観	—	—	E	—	—	発錆がないこと。					
			ライニングの厚さ	—	—	M	—	—	ライニング厚規定以上のこと。				○	
			作動状態	—	—	D	—	—	自重降下すること。					
			自重降下速度の測定	—	—	M	—	—	6m/min以下または開閉装置の仕様とこのこと。					
減速部	致	減速機	振動	—	H	H	H	—	異常振動がないこと。					
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。					
			温度上昇	—	H	H	—	—	異常な温度上昇がないこと。					
			漏油	—	E	E	E	E	漏油がないこと。					
			潤滑油量	—	E	E	—	—	油面計の規定内であること。					
			潤滑油劣化	—	—	E	—	—	ひどい濁りがなく、乳白色化してないこと。					
			内部状態	—	—	—	—	—	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。					
動力伝達部	致	切替装置	作動状態	—	D	D	D	—	円滑に切換ができること。					
		連動軸	変形	—	—	E	—	—	変形がないこと。		—			
			損傷	—	E	E	E	E	損傷がないこと。		—			
		軸継手	振動	—	H	H	H	—	異常振動がないこと。		—			
			異常音	—	S	S	S	—	異常音がないこと。		—			
			芯出し	—	—	—	—	—	異常な芯振れがないこと。		—			
			給油状態	—	—	E	—	—	油が供給されていること。劣化がないこと。		—			
			内部状態	—	—	—	—	—	構成部品に損傷、異常な摩耗がないこと。		—			
扉体駆動部	致	ラックピン	摩耗	—	E	E	E	—	開閉装置メーカーの許容値以内であること。					
			給油状態	—	—	E	—	—	ラックピンにグリースが付着していること。					
		ラック棒	変形、損傷	—	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。					
			異常音	—	—	S	—	—	異常音がないこと。					
		ラックカバー	変形、損傷	—	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。					
保護装置	致	過負荷防止機構	作動状態	—	—	D	—	—	過負荷防止機構が正常に作動すること。		—			
		制限開閉器	作動状態	—	E	D	E	—	設定値にて正常に作動すること。		—			
			変形、損傷	—	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。		—			
		リミットスイッチ	作動状態	—	E	D	E	—	設定値で正常に作動すること。		—			
開度計		機械式	作動状態	—	E	D	—	—	実揚程と指針表示が合致していること。					
			盤面の曇り	—	E	E	—	—	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。					
特記事項	注1)管理運転点検は、管理上可能な範囲において開閉動作を確認し、各部位を点検する。 注2)年点検は、開閉動作を確認するとともに、全ての設備構成部位を点検し、異常の有無、劣化状況の判定、計測などを行う。													

点検実施日： 令和 ○ 年 □ 月 ▽ 日

8 ゲート操作制御設備 8-5 機側操作盤							機器名: ゲート機側操作盤									
							機種形式: 屋外自立型									
※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)							※3 点検結果の判定基準							※4 傾向管理		
※2 点検方法 (() 書きは運転時実施)							○ 正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。							○ 測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目		
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視	△ 現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。								
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触	× 現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。								
D 動作確認 S 聴診 - 点検対象外																
注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。																
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。																
装置区分	※1 装置等の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果			※4 傾向管理	摘要		
				月点検 目視	年 管理 運轉	運 転 点 検	臨 時 点 検	取水 ゲート		吐口 ゲート						
全般		盤全体	清掃状態	E	E	E	E	-	著しい汚れ、ごみ等がないこと。							
			破損	E	E	E	E	-	破損がないこと。施錠が完全であること。							
			塗装状態	E	E	E	-	-	内外面に塗膜の剥れ、腐食がないこと。							
			内部乾燥状態	E	E	E	-	-	結露していないこと。							
			絶縁抵抗	-	-	M	-	-	絶縁抵抗値が規定値以上あること。					(0.2MΩ:200V)		
			接地抵抗	-	-	M	-	-	基準値以下であること。					D種、避雷器		
	機器、計器類、スイッチ類(共通)	汚れ	E	E	E	-	-	汚れがないこと。								
		変色	E	E	E	-	-	変色がないこと。								
		端子、取付のゆるみ	E	E	E, H	-	E	端子、機器類の取付にゆるみがないこと。								
		異常音	-	E	S	-	-	異常音がないこと。								
配線・配管	破損	E	E	E	-	E	破損がないこと。									
	致 盤内配線	配線状態	-	-	E	-	E	損傷がないこと。断線していないこと。								
	端子台	腐食	-	-	E	-	-	発錆がないこと。								
	取付ボルト	ゆるみ、脱落	-	-	E, H	-	E	ゆるみがないこと。					(Hの方法は打診)			
計器類	配管	配管状態	-	-	E	-	E	割れ、腐食、取付の緩み、脱落がないこと。								
	電流計	指示	-	E	E	E	-	零点及び指示計値が正常なこと。								
	電圧計	指示	-	E	E	E	E	零点及び指示計値が正常なこと。								
開閉器類	致	開度計	指示	-	-	E	-	E	実揚程と合致していること。セルシン式は発信器の指示値に応動していること。							
		操作スイッチ	作動テスト	-	D, E	D, E	D, E	-	開、閉、停止、切換が的確に作動すること。							
		表示灯	ランプテスト	-	D, E	D, E	-	E	点灯すること。							
	致	盤内蛍光灯	点灯、球切れ	-	-	D	-	E	点灯すること。							
		電磁接触器	動作テスト	-	D	D	D	-	異常なく作動すること。							
		異常音	-	S	D, S	S	-	異常音、振動がないこと。								
		接点	-	-	D, S	-	-	変色がないこと。接点溶着がないこと。								
		漏電継電器	作動テスト	-	D	D	-	-	テストボタンを押して作動すること。							
		配線用遮断器	作動テスト	-	D	D	-	-	ON/OFFが確実に行えること。							
	タイマ	避雷器	ランプテスト	-	E	E, H	-	-	正常に点灯すること。ヒューズが正常なこと。							
スペースヒータ		作動テスト	-	D	D	-	-	サーモスイッチが動作すること。								
リレー類		補助リレー	作動テスト	-	D	D, S, E	D	-	異常音、振動がないこと。							
	異常音		-	S	D, H, S	S	-	異常音がないこと。								
	3Eリレー	作動テスト	-	D	D	D	-	テストボタンを押して作動すること。								
		設定値確認	-	E	E	E	-	図面通りの設定値であること。								
	サーマルリレー	作動テスト	-	D	D	D	-	テストボタンを押して作動すること。								
	タイマ	設定値確認	-	E	E	E	-	所定の設定値にセットされていること。								
特記事項	注1) 管理運転前後には取付状態や汚損などの確認を実施すること。 注2) 弱電機器には、絶縁抵抗測定禁止箇所があるので事前に確認すること。															

排水機場操作報告書

報告年月日 令和 年 月 日
報告者氏名

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日の洪水時における排水機場の操作について、別紙運転日誌等を添え、次のとおり報告いたします。

排水機場名		排水樋門名	
ゲート操作開始日時	月 日 時 分	ゲート操作終了日時	月 日 時 分
排水機場運転日時	月 日 時 分	運転開始水位（内水）	
運転中最大水位日時	月 日 時 分	運転中最大水位（内水）	
運転停止日時	月 日 時 分	運転停止水位（内水）	
天 候		運転時間累計	時間 分
浸 水 状 況	<div></div>		
排水機場操作のために出動した人員	・ 設備機械工 ～ 名 ・ 普通作業員 ～ 名		
関係機関との連絡内容	<div></div>		

作 業 日 報

排水機場名

排水機場

決裁区分	<div>係</div>	係	長	係	種別	災 害 待 機
						災 害 運 転
						定 期 点 検
						特 別 整 備

令和 年 月 日

天候及び気象状況

業 務 内 容	状 況 及 び 原 因

報 告 時 間	報 告 内 容

操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								

操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								

使用物 品及油 び脂 量	品 名	数 量	用 途

工 種	氏 名	勤 務 時 間	時 間 数		備 考
			昼 間	夜 間	
設備機械工		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
普通作業員		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	

※昼間：6：00～20：00 夜間：20：00～6：00

備 考

報告者氏名

運 轉 日 報

令和 年 月 日 曜日 天候

[illegible]

排水機場 ○号ポンプ運転記録簿

令和 年 月 日

[illegible]

排水機場点検整備・操作業務（ 月分） 完了・請求内訳書									
工 種	実 施 内 訳						単価番号	備 考	
	数 量		単 位	単 価	金 額				
	(延べ時間数)								
普通作業員（昼間）		時間	1 時間		円		円	1	
普通作業員（夜間）		時間	1 時間		円		円	2	
土木一般世話役（昼間）		時間	1 時間		円		円	3	
土木一般世話役（夜間）		時間	1 時間		円		円	4	
設備機械工（昼間）		時間	1 時間		円		円	5	
設備機械工（夜間）		時間	1 時間		円		円	6	
普通トラック運転費（4 t, 昼間）		時間	1 時間		円		円	7	
普通トラック運転費（4 t, 夜間）		時間	1 時間		円		円	8	
普通トラック運転費（11 t, 昼間）		時間	1 時間		円		円	9	
普通トラック運転費（11 t, 夜間）		時間	1 時間		円		円	10	
ラフテレーンクレーン運転費（25 t 昼間）		時間	1 時間		円		円	11	
ラフテレーンクレーン運転費（25 t 夜間）		時間	1 時間		円		円	12	
バックホウ運転費（昼間）		時間	1 時間		円		円	13	
バックホウ運転費（夜間）		時間	1 時間		円		円	14	
点 検 整 備			1 式				円		
小 計							円		
消 費 税(10%)							円		
合 計							円		

注1) 数量の算出は、1ヶ月の間に実施した各工種の延べ時間数とする。ただし、30分以上は切り上げて1時間とし、30分未満は切り捨てるものとする。

注2) 昼間とは午前6時～午後8時までとし、夜間は午後8時～午前6時までとする。

※ この様式は、必要に応じて適宜変更可能なものとする。